

ま え が き

当該国土施策創発調査は、歴史ある利根運河周辺地域内に数多く存在する平地林や谷津田などの豊かな自然を活かした地域づくりを促進するため、提案である千葉県野田市と、国土交通省(関東地方整備局)及び農林水産省(関東農政局)が共同して行う調査である。

野田市は江戸川、利根川及び歴史ある利根運河に囲まれ、これらに接した低平地の水辺環境と数多くの平地林や谷津田が分布し、都市地域と豊かな自然が共存している。このうち谷津田は、都市化進む中で2次的自然環境の場を提供していることから、今後とも引き続き農地として利用され、こうした自然環境を維持環境保全出来るよう、適切な整備と保全・管理をすることが喫緊の課題となっている。

野田市東南部に位置し、谷津田地形を形作っている江川地区では、農業従事者が高齢化し、また、農地としても用排水が未整備等であることから、農地の遊休化等が進んでいる。

そこで、良好な自然環境に恵まれた農地の保全の観点から、農地としての利用の方法及び農業生産が持続的に営まれるための生産基盤の改良・整備等の対策が求められている。

本調査では、管内の類似事例を踏まえ、野田市に存在する谷津田について、環境との調和に配慮した整備のための技術手法や、持続的な農地の保全・管理方策等を調査・研究するものであり、この調査結果については、野田市のみならず広く管内の他地域へも活用が期待されるものである。

このことから、千葉市の大草地区及び横浜市の舞岡地区などの管内事例地区の把握、谷津田地域の保全意義と土地利用上の課題、谷津田地域が持つ生物多様性とその保全・管理・活用のためのモデル計画、谷津田地域の農業・農村資源の保全・管理基本方策、谷津田地域の農業・農村資源の保全・管理のための農地、施設等の整備改良技術指針モデルや、江川地区の保全・管理・整備改良構想について検討、取りまとめた。

調査の実施に当たっては、財団法人 農村開発企画委員会(理事長 山本徹)に委託し、

日本大学生物資源科学部教授糸長浩司氏を委員長とする「自然や歴史と調和した美しい地域空間実現調査農林水産省委員会」を設置し、学識経験者並びに千葉県、野田市の関係機関のご指導を頂いた。

その他、多くの関係者から貴重な資料提供、また、ご高見を拝聴させて頂くなど多大のご協力を頂いた。これら関係機関並びに関係各位に心から深く感謝し、お礼を申し上げる次第である。

平成 19 年 3 月

関東農政局農村計画部

目 次

序 章

1. 調査の目的及び調査対象地域	1
1-1 調査の目的	1
1-2 調査の視点	2
2. 調査の進め方	3
2-1 調査内容	3
2-2 調査の経過	4
3. 調査体制	5
3-1 全体調査	5
3-2 農林水産省の体制	5

要約編

1. 谷津田の自然と農業	9
2. 江川地区の農業・農村の概況と課題	11
3. 谷津田地域保全の意義と土地利用上の課題	17
4. 谷地田地域が持つ生物多様性とその保全・管理・活用のため モデル計画	21
5. 谷津田地域の農業・農村資源の保全・管理の基本方策	26
6. 谷津田地域の農業・農村資源の保全・管理のための農地、施設等 の整備技術針モデル	32
7. モデル(江川地区)の保全・管理・整備改良構想	38
8. 野田市江川地区の農業・農村環境の保全・利用・整備計画の 基本方針と展望	43

本 論

1. 谷津田の自然と農業	57
1-1 はじめに	57
1-2 谷津田の役割等	57
(1)谷津田の役割	57

(2)広域的な谷津田の分布と保全状況	59
(3)東葛飾地域における農地の動向	67
2. 野田市並びに江川地区における農業・農村等概況と課題	75
2-1 野田市農業・農村地域概況と課題	75
(1)野田市の概況	75
(2)野田市の農業の概況	77
2-2 江川地区の農業・農村の概況と課題	85
(1)位置、調査対象範囲及び集落区域	85
(2)自然条件及び現況土地利用	86
(3)江川地区の概況と景観	87
(4)貴重生物類の生息状況	87
(5)法的地域指定状況	88
(6)道路・鉄道	89
(7)河川・水路	89
(8)主要施設立地の状況	90
(9)土地所有状況	90
(10)江川地区の農業・農家の概況と特徴	103
(11)野田市周辺における農業体験・交流施設開設状況	120
2-3 地域の課題等	124
3. 谷津田地域保全の意義と土地利用上の課題	125
3-1 谷津田地域保全の意義	125
(1)原風景の存在と都市骨格の形成	125
(2)緑地の機能が重層する多面的機能発揮エリア	125
(3)共生と循環社会モデル構築の道標	125
3-2 谷津田地域の土地利用の現状と課題	126
(1)谷津田地域の現状―消失要因―	126
(2)谷津田地域への都市住民の期待―保全運動等の動向―	127
(3)谷津田地域保全に関わる制度上の課題	127
3-3 江川地区における土地利用上の基本的視座	128

(1)土地利用計画に資する自然環境の資質分析の基本的な考え方	128
(2)既土地利用計画(自然環境保護対策基本計画：野田市H18年3月 策定)にみる保全上の課題	128
(3)保全・利用・管理一体型のしくみづくりに向けて	129
4. 谷地田地域が持つ生物多様性とその保全・管理・活用のための モデル計画	130
4-1 谷地田地域が持つ生物多様性の特性と課題	130
(1)地形的多様性とその生態的な土地利用	130
(2)谷津田の形態的な構造と生物生息上の意義	133
(3)谷津田の生物多様性保全における課題	141
4-2 谷津田地域での農業生産活動、農業的土地利用と生物多様性の 保全・管理・活用との共存方策モデル計画の検討	143
(1)目標像の合意形成手法の深化	143
(2)生物相保全型の農業基盤の在り方	144
4-3 共生方策モデル計画を適用するにあたる留意事項	146
(1)ゾーニング指針	146
(2)特記すべき生物群についての考え方	147
5. 谷津田地域の農業・農村資源の保全・管理の基本方策	150
5-1 保全・管理主体別の保全管理方策の類型とその課題と基本方策	150
(1)地権者としての農業者	150
(2)谷津田（棚田・千枚田）のオーナー制	151
(3)田舎暮らし志向の新規農業参入者	153
(4)NPO法人による管理	153
(5)集落営農組織	155
(6)農事組合法人	157
(7)農協	157
(8)農業公社・農業生産法人	158
(9)一般企業の谷津田農業への関わり	159
(10)自治体	160
(11)農業者・行政・市民・事業者のネットワーク	161

5-2 農業生産・生態系保全など具体的な土地利用区分を前提とした 保全・管理方策の類型ごとの課題と基本方策	166
(1)台地と谷津田を一体とした環境保全計画の策定	166
(2)自治体・農家・市民・事業者の機能分担	167
5-3 江川地区に適用するにあたり留意すべき事項	169
(1)社会的資本としての排水設備への投資	169
(2)環境保全型農業のプロマネージャーの設置	169
(3)収益の上がる農業生産法人	170
(4)斜面林の活用	172
(5)事業主体	172
(6)情報発信および会計の透明化	173
5-4 農業・農村資源の保全・管理の事例	173
(1)横浜市「市民と農とのふれあい」の事例<5-1の11の事例>	173
(2)神奈川県津久井郡農業協同組合の“学校農園支援事業” <5-1の7の事例>	175
(3)集落営農組織による耕作放棄地対策<5-1の5の事例>	177
(4)横浜市「農地とふるさと景観の保全」について	178
(5)「菜の花プロジェクト」による資源循環システムと農地の 有効利活用	183
(6)神奈川県小田原市のNPO法人等による耕作放棄対策	185
(7)広島県における「集落農場型農業生産法人」を核とした 農業構造改革	187
(8)横浜市「市民の森」<5-1の(4)の事例>	191
(9)見沼田圃の土地利用	191
(10)茨城県龍ヶ崎市農業公社での事業<5-1の(8)の事例>	194
(11)福島県喜多方市アグリ特区<5-1の(9)の事例>	194
(12)千葉県鴨川市「大山千枚田」オーナー制度による都市農村交流 <5-1の2の事例>	194
5-5 農業・農村資源の保全・管理のための支援策	203
(1)「農山漁村活性化プロジェクト支援交付金」 (平成19年度農林水産省)	203
(2)「共同活動支援交付金」(平成19年度農林水産省)	204
(3)「広域連携共生・対流等対策交付金」	204
(4)景観・自然環境保全形成支援事業(補助金)	205

(5) バイオマスの利活用の推進	206
(6) 「森林づくり交付金」	207
6. 谷津田地域の農業・農村資源の保全・管理のための農地、施設等の整備技術針モデル	208
6-1 谷津田地域全体の土地利用(ゾーニング)	208
(1) ゾーニング案について	208
6-2 農地の整備について	210
(1) 考え方	210
(2) 環境保全型農業振興ゾーン	210
(3) ふれあい体験学習ゾーン	212
6-3 都市農村交流施設	213
(1) 中心的施設	213
(2) 個別施設	214
6-4 多面的機能発揮のための整備方式	214
(1) 生態系保全水路	214
(2) 洪水貯留水田	216
(3) 水路の親水機能	216
(4) 農地の景観機能	217
7. モデル(江川地区)の保全・管理・整備改良構想	218
7-1 江川地区の計画課題と基本的方向	218
(1) 主な計画課題	218
(2) 基本的方向	221
7-2 前提となる諸計画と本調査展開に向けた基本的視点	224
(1) 「自然環境保護対策基本計画ー自然と共生する地域づくりー(修正版)」の展開	224
(2) 「野田市都市計画マスタープラン」ー江川地区一帯のまちづくりの方向	230
7-3 地域意向の把握	232

7-4 基本方針	234
7-5 土地利用構想	237
(1)基本方針	237
(2)土地利用ゾーニング	238
7-6 具体化に向けて	243
(1)農地の保全利用に向けての留意点	243
(2)ふれあい体験交流ゾーンの具体化に向けた留意点	247
(3)景観づくり具体化に向けた留意点	252
8. 野田市江川地区の農業・農村環境の保全・利用・整備計画の基本方針 と展望	259
8-1 関東地域の谷津田モデル地区としての価値	259
(1)関東地域における市街地に接近したモデル的な谷津田地域	259
(2)公共的空間としての価値	260
(3)多様な主体の参画と連携による谷津田環境の保全と活用	260
8-2 江川地区の広域的、地域的位置づけ	261
(1)利根運河の環境整備・活用との連動	261
(2)他の谷津田とのつながりとモデル的谷津田としての保全と整備	261
(3)求められる多面的な機能	261
8-3 土地利用計画及び環境保全・整備・活用・管理の基本方針	263
(1)土地利用計画の基本方針	263
(2)土地利用ゾーン別での環境保全・整備・活用・管理の基本方針	266
8-4 維持・管理・利用の主体形成	269
(1)多様な主体の連携と協働による環境維持・管理・利用の推進	269
(2)「江川地区谷津田再生協議会」(仮称)の設置と運営	269
(3)農林地の保全と活用のためのファンディングシステムの構築	269
8-5 持続性の担保としてのP D C Aサイクルの構築と順応的管理手法 の構築	270
<参考・事例地区>	271